

- 一六十八 北人劫貫年所觸 二通
- 一六一 火之元之所觸
- 一六二 永娘君採中川抄書所觸
- 一六三 松平之所守お信金
- 一六四 夢海屋使在唐分出火
- 一六五 館商買分所觸
- 一六六 水野鐵希多處在所出火中屆
- 一六七 宮崎平四郎屋敷分金屋出タル風説
- 一六八 天保五驛河出火分所觸書上
- 一六九 富安九八市所触分任候
- 一七十 唐津之元火筆古銘入タルヲ堀出ス

三 私領分被為思大連五月十八日雨降續々而進了大雨之由
 同月九日之海之進あり大風あり水川々々仕真船川筋平
 水之或丈五六尺斗水場池田川筋平あり或丈作り水指平平
 川々枝川進満あり水川除野を損去り切道損江縁切
 用水江筋平抄押込川流田相水込石入川久流地出莫古有
 不之券家居あり所にお水門急々場名あり委為義も不知不
 中の浪浪立あり被りて水不之破損不并損色言人救護我あり
 候と未お知不りり有進あり所之于一は凡先公辰山筋一と云
 七ノノ旨
 土井徳忠書

一 訃 先達与西席一々私立者佐州杉中殿下本町より高月二日
 曉丑上刻出火及大火同日辰中刻火流中刻火流之是
 一本町所取火元